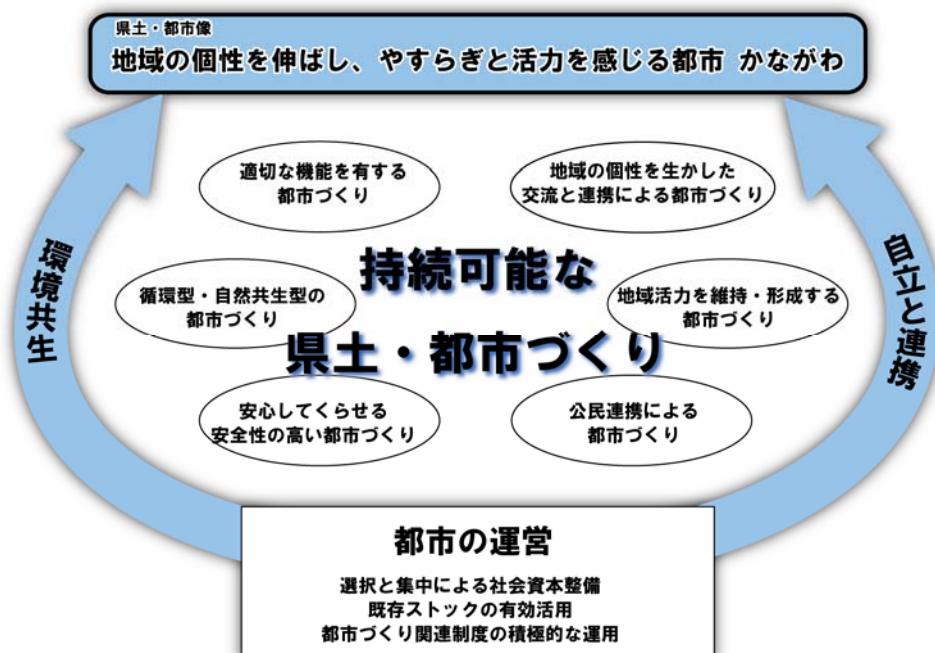


1 県土・都市像

将来(2025年)を展望した県土・都市像を『地域の個性を伸ばし、やすらぎと活力を感じる都市 かながわ』とし、県民一人ひとりが生き生きとくらすことのできる、活動の場にふさわしい機能と空間を備えた県土・都市づくりを目指します。

県土・都市像の実現にあたっては、「環境共生」と「自立と連携」の2つの県土・都市づくりの方向性を定め、県民・市町村との協働のもとに、総合的かつ計画的な都市づくりを展開します。

その際、少子高齢化の進行や将来の人口減少社会の到来などに備え、従来の「開発基調・量的拡大」から「質的向上・県土の利用と保全」を重視する方向へと転換し、地域の個性を生かし、社会経済の動向や環境・生活の質の向上に配慮し、選択と集中による社会資本整備、既存ストックの有効活用、都市づくり関連制度の積極的な運用といった“都市を運営していく”といった観点から進めることで、次の世代に引き継げる持続可能な県土・都市づくりを実現します。



都市づくりの基本方向

2 県土・都市づくりの方向性

◆「環境共生」の方向性

環境と共生した安全性の高い県土の形成

利便性が高くにぎわいのある都市環境と個性ある豊かな自然的環境がともに存在し、調和している神奈川の魅力を維持・向上させるため、自然や地形などを考慮して水やみどりの適切な保全と活用を図ります。

さらに、地域の実情に応じた土地利用と、地域資源や既存ストックを有効活用することにより、神奈川らしさを生かし、環境と共生した安全性の高い県土・都市づくりを進めます。

そこで、県土の土地利用状況などを踏まえて3つのゾーン(複合市街地ゾーン、環境調和ゾーン、自然的環境保全ゾーン)と「水とみどりのネットワーク」を設定します。

ゾーンごとに環境共生の方向性を定めることで、それぞれの特性に応じ、都市環境と自然的環境が調和したメリハリのある県土の形成を図ります。また、ゾーン間での連携により様々な環境問題への対応を図ります。

複合市街地ゾーン

- 多様な都市機能の集積
- 街なか居住の促進
- 環境や防災に配慮したゆとりある市街地の形成
- 自然的環境や良好な都市景観の保全・創出

環境調和ゾーン

- 都市と自然のバランスへの配慮
- 自然の恵みを生かした地域活力の維持・創出
- 市街地の無秩序な拡大抑制

自然的環境保全ゾーン

- 自然的環境の積極的な保全
- 様々な機能を持つ森林の保全
- 都市住民の自然とのふれあいの場の創出

水とみどりのネットワーク

- 神奈川の特徴ある風土・環境・景観を生かし育み、水辺や緑地などのネットワーク化
- 多様な機能・役割を持つ自然的環境や、地域の歴史と一体となったみどりの風景などは、首都圏の共有財産として、山・川・海の連続性を踏まえた多様な主体のネットワークによる保全・活用
- 東京・山梨・静岡との交流を通じた、県境を越えて水とみどりの保全・活用



中心市街地などでの街なか居住



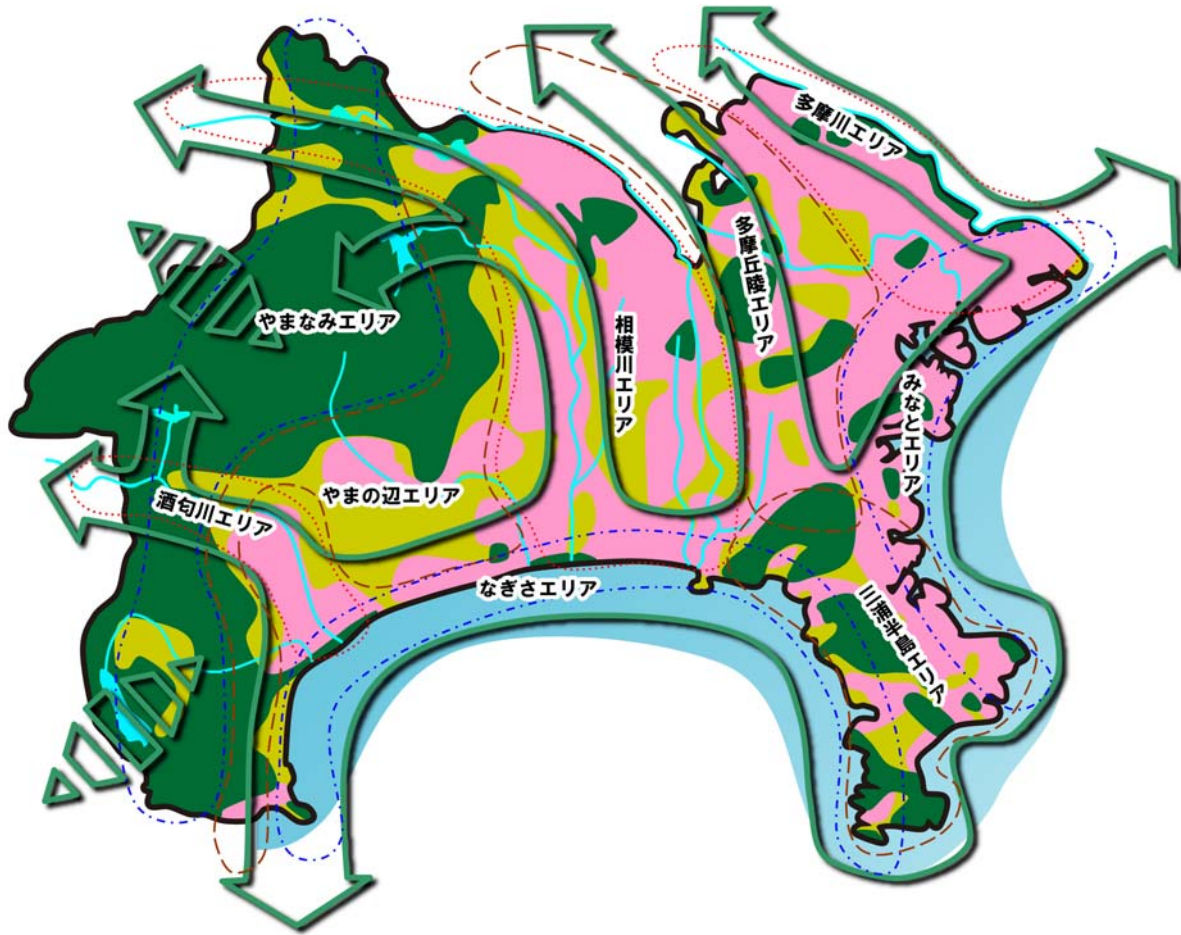
都市と自然のバランス



多様な担い手による森林保全



水とみどりの保全・活用



*ゾーニングは都市づくりの方向性をイメージとして表現したものです。

凡 例

複合市街地ゾーン

環境調和ゾーン

自然的環境保全ゾーン



水とみどりのネットワーク



県域を越える山なみエリアの連続性

主要な河川

地勢的な広がりエリア

海・山を中心とするエリア

河川を中心とするエリア

丘陵を中心とするエリア

◆「自立と連携」の方向性

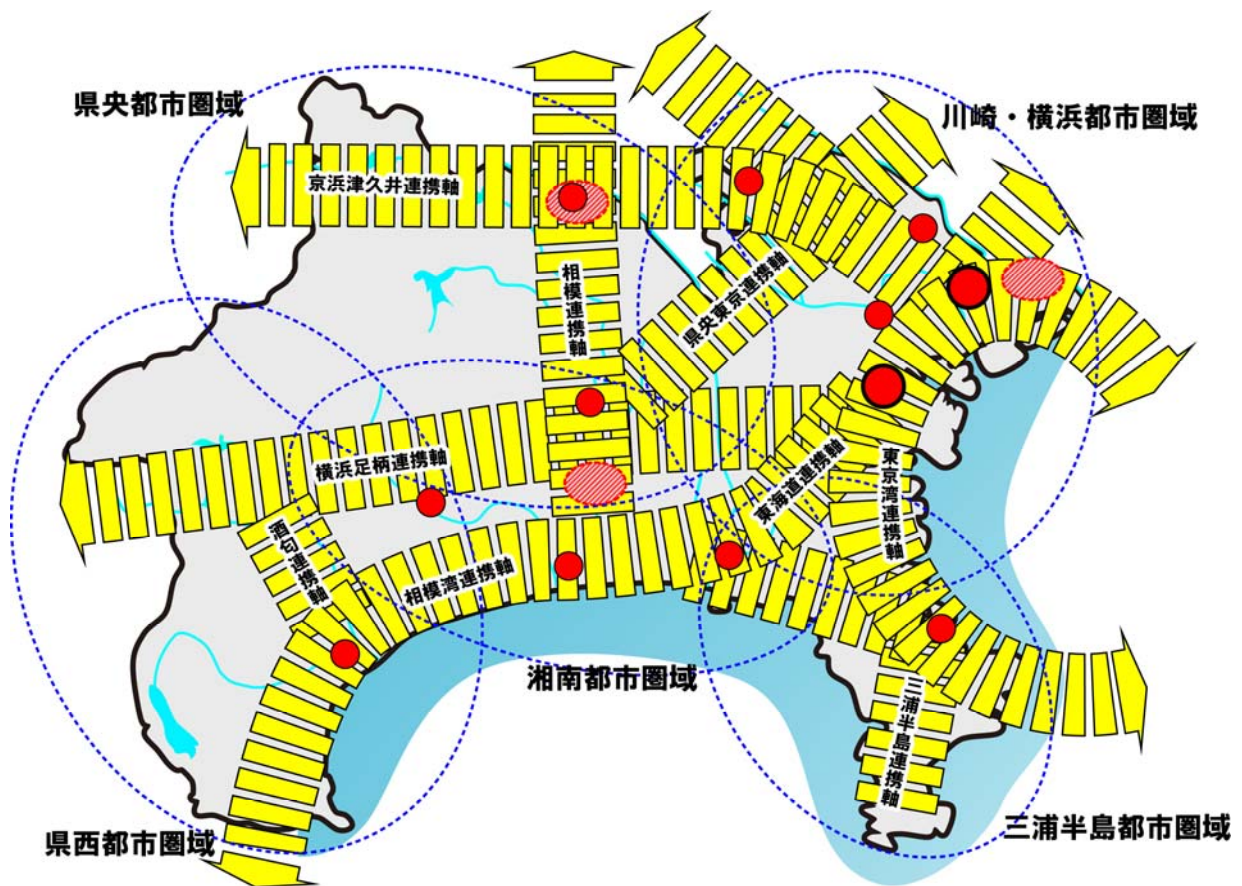
自立と連携による活力ある県土の形成

県土の骨格をなす地形や、人、モノ、情報の集積と流動状況や地域政策圏などを踏まえて、5つの都市圏域を設定し、将来の県土・都市づくりの方向性を共有していきます。

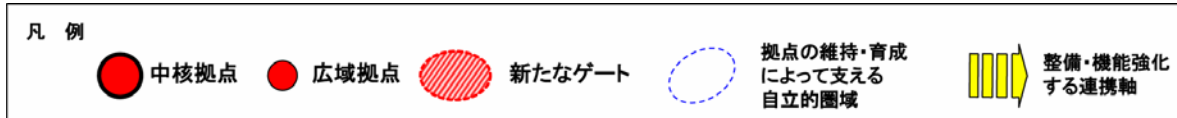
それぞれの都市圏域では、地域の特性を生かして地域力を高めることで、個性的で自立的な発展を図るとともに、県外や都市圏域相互における人、モノ、情報の円滑な連携を支えるネットワークの充実により、より魅力的で活力ある県土・都市づくりを進めます。

そこで、県土・都市づくりの要となる拠点および連携軸を設定し、自立と連携の方向性を定めます。

● 自立と連携の都市づくり ●



* 拠点は、県土の骨格を形成する中核拠点、広域拠点、新たなゲートを示しています。また、連携軸は広域連携軸を示しています。



拠点の維持・育成

自立と連携を通じた都市づくりのため、県土や都市圏域の自立的な発展をリードする拠点を位置づけます。

<新たなゲート>

- 首都圏や全国、世界との交流連携を実現する機能を備えた神奈川の新たな窓口(ゲート)となる拠点
- ・県内に集積する産業や拠点との連携によって新しい産業の創出・育成などを図るため、交通基盤の整備や都市機能の集積を誘導し、拠点としての形成を目指します。

<中核拠点>

- 首都圏の中核となる拠点
- ・情報化社会、国際化社会に対応した中枢業務管理、県内外からの多様なニーズを満たす総合性や専門性のある商業機能や、芸術・文化、研究、国際交流など、複合的な都市機能の集積を図ります。

<広域拠点>

- 県全体の広域的な観点に立った役割を有し、都市圏域全体の自立をけん引する拠点
- ・生活圏や経済活動の広がりに対応した商業、業務、研究開発、アミューズメント、教養文化、福祉・医療など、高度で多様な都市機能の集積を図ります。

<地域の拠点>

- 都市圏域の自立を支える拠点
- ・地域的なニーズにきめ細かく対応し、生活に密着したコミュニティレベルでの便利で快適な暮らしを支える商業・業務・サービスなどの都市機能の集積を図ります。



全国、世界との新たな窓口



総合的・複合的な機能集積を図る中核拠点



自立をけん引する機能集積を図る広域拠点

連携軸の整備・機能強化

県内外の連携や、自立した地域の機能を支えあう地域間連携を促進するため、「多層・多機能型の都市構造」に対応した連携軸を設定します。

県外や都市圏域間などの交流・連携を促進するために、自動車専用道路などの新たな整備を図ることのほか、既存の道路・鉄道や公共交通など既存ストックを有効活用しながら、地域の状況に応じた土地利用のあり方も連動して、人、モノ、情報が効率よく行き来できるようにするため、連携軸の整備・機能強化を図ります。

<広域連携軸>

- 防災対策をはじめ、環境、産業、観光といった広域的な課題に対応を図るために県域を越えた交流連携を促進する軸



広域的な防災対策、支援活動

<県土連携軸>

- 県土全体の自立的な発展を図るために、県内主要都市への通勤など、都市圏域間・都市拠点間といった県内の交流連携を促進する軸

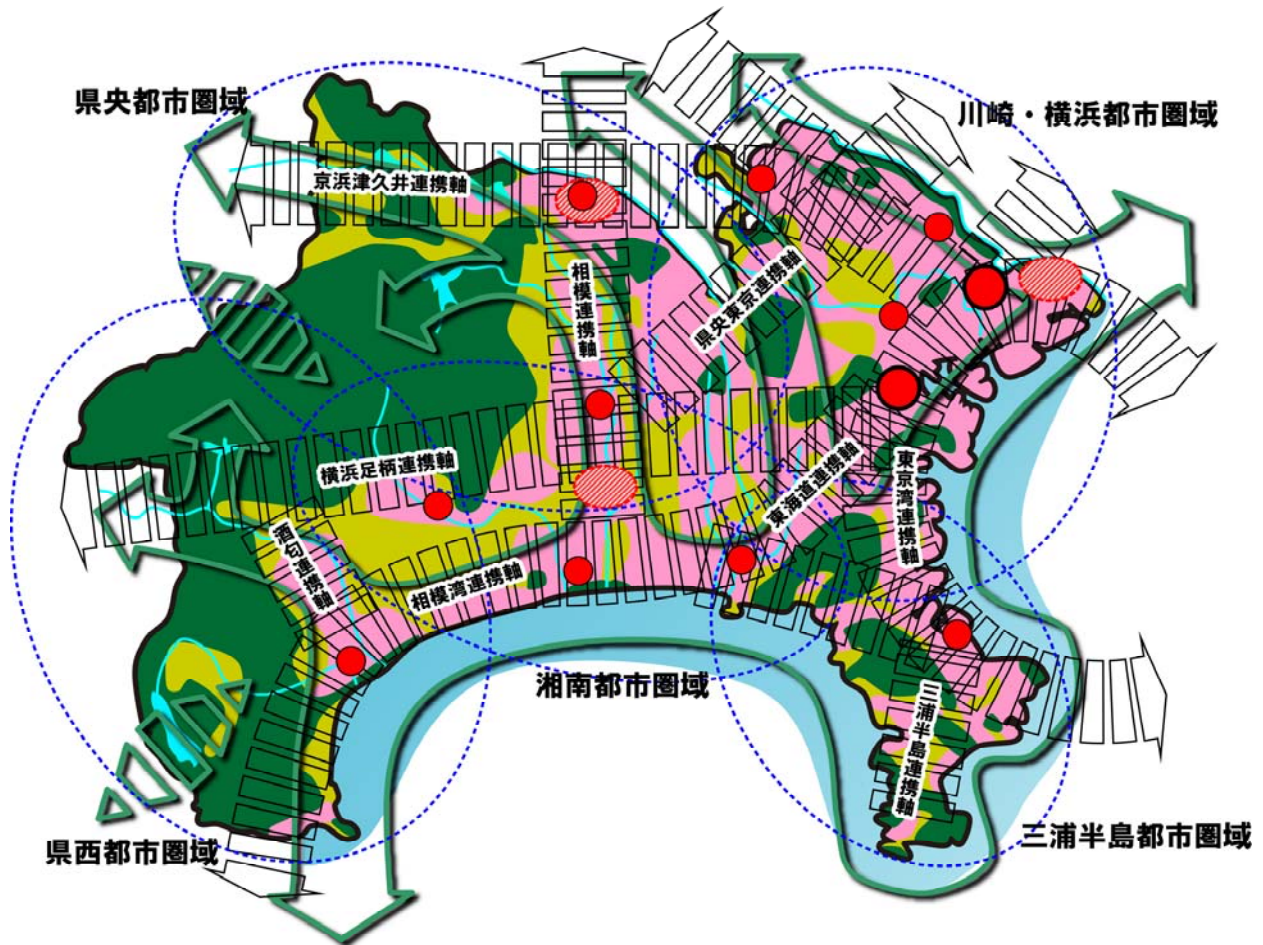


県内主要都市への通勤・通学











<都市連携軸>

- 個性ある都市圏域の形成を図るため、地域の特性を踏まえた効果的な交流連携を促進する軸

● 将来の県土・都市像 ●



*ゾーニングは都市づくりの方向性をイメージとして表現したものです。

凡 例	
<環境共生>	
	複合市街地ゾーン ◇鉄道駅や公共交通の利便性を生かした「歩いて暮らせるまちづくり」 ◇多様な機能を持った質の高い市街地の実現
	環境調和ゾーン ◇都市と自然の調和・つながりを育む土地利用 ◇地域特性に応じた魅力の創造・発揮
	自然的環境保全ゾーン ◇まとまりのあるみどりの保全、周辺環境との一体的なうらおいの創造 ◇価値ある環境を生かして伸ばす交流の促進
	水とみどりのネットワーク ◇特色ある風土・環境・景観を生かし育み、都市と自然との調和・共生を促進 ◇山・川・海の連続性を踏まえた循環・自然共生型のうらおいある県土の創造
	県境を越える山なみエリアの連続性
<自立と連携>	
	中核拠点 ◇首都圏の中核的な拠点として、複合的な都市機能を累積
	広域拠点 ◇県全体の広域的な機能、都市圏域全体の自立をけん引する高度な都市機能の累積
	新たなゲート ◇全国や世界との交流連携の窓口として、交通基盤の整備と拠点を形成
	整備・機能強化する連携軸 ◇自立した地域の機能を支えあう交通ネットワークの整備と既存ストックの機能強化 ◇防災、環境、産業・観光といった広域的な課題への対応
	都市圏域 ◇地域の個性を生かした自立ある発展 ◇人、モノ、情報の円滑な流れを促す連携軸による活力ある都市づくり